

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	経済学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導(院) 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導(専院)
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示) 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学部と連携した5年一貫教育体制を確立し、研究科博士課程前期課程開講科目の学部生受講を促すことにより、講義形式の科目を増やす。	→学部受講者数、学部から大学院進学者数。	C	B	B	B	B
2. 演習担当教員に加え、複数教員による集団指導体制の強化により、学位取得プロセスに位置付けた研究指導体制を確保する。	→共同演習開講数および受講者数。	B	B	B	B	B
3. 博士課程後期課程では、ワークショップ方式の科目を新設し、大学院生が自著の研究論文の報告、論文サーベイする能力を向上させる。	→院生の国際学会報告者数および報告件数、国内学会報告者数および報告件数、経済学ワークショップ報告者数および報告件数。	C	B	B	B	B
4. 博士課程後期課程学生に学部科目などを担当させ、授業担当能力を高める。	→博士課程後期課程学生の学部科目担当者数。	D	C	C	C	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2012年度入学生より専門科目のナンバリング(標準・応用・発展)を導入することで科目の難易度を明示するようになり、2013年度からは学部と大学院との合併科目の提供を開始した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 合併科目とすることにより大学院生に開講できる科目の幅が広がった。また学部生には大学院生と一緒に学ぶ機会を提供することができるようになった。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 上記の制度導入後まだ間がないので、今後効果の検証に着手し、必要に応じて改善策を講じたい。	☆
		その他	
			☆
目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 共同演習を単位化し、複数教員による共同指導体制を促進してきた。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 共同演習について、2012年度4名(前期課程生)で、2013年度2名(後期課程生)の開講実績となっている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 順調な滑り出しと考えるが、今後は指導教員と共同演習担当教員との連絡をさらに密にするなどして複数指導体制を強化し、教育効果の充実を目指したい。	☆
		その他	
			☆
目標3	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2012年度より経済学ワークショップの単位化を行い、博士課程後期課程生の博士学位取得のために必要事項とした。研究科全体として大学の援助制度「海外研究助成金」を推進しており院生の国際学会報告者数に関しては、大きく寄与している。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か ワークショップの単位化によって後期課程3年間の報告が義務付けられたため、論文報告に積極的に取り組むモチベーションの醸成に寄与していると考えられる。海外研究助成金についても、2010年度2名、2011年度1名、2013年度2名の国際学会での発表による申請があり採用された。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か ワークショップの単位化により、ともすれば公開制が薄れがちになる事が懸念されるため、積極的に他の大学院生のワークショップへの参加を促す方法を探りたい。	☆
		その他	
			☆

目標4	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 従来、経済学専門科目は本務校を持たない非常勤講師の依頼はしてこなかったが、研究員を中心にいくつか担当するよう にして教歴を持たせることについて継続して実施してきた。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 後期課程生の授業担当については、対象年度生がいなかったこともあって実現していない。しかし2013年度より「経済と経済 学の基礎」補習用チューターとして大学院生2名が採用され、実際に彼らが補習授業を担当した。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 補習授業担当の継続や初年次教育を含む担当の拡大を検討し、大学院生の授業担当能力の向上を促進したい。	☆
		その他	☆
備考			☆